Rd
RECYCLE DESIGN
Apr. 2015
No. 247
横浜型地域貢献企業
最上位認定取得

RECYCLE Design

マルニ商店
栗原清剛さん

西区浅間町
二丁目自治会
村岡治男さん

特集

資源集団回収による古紙回収率100%の道のり

特集

資源集団回収による古紙回収率100%の道のり

横浜市の古紙回収は、2014 年 3 月に資源集団回収による古紙回収率 100%を達成しました。
古紙回収をすべて資源集団回収で実施しているのは、横浜市のような大都市では全国でもあまり例がありません。
そこで今回は、古紙回収率 100%に至るまでの道のりを振り返ってみます。

取材協力:リサイクル組合古紙委員会、横浜市集団回収推進部会

横浜市と自治会・町内会、古紙回収業者が協力し合ったからこそ、100%が実現できた

目標を掲げてからわずか4年で100%を達成

横浜市が資源集団回収による古紙回収率100%を目標に掲げたのは、「ヨコハマ3R夢プラン」が策定された2010年のことでした。そして、その目標は4年後の2014年3月に達成することができました。

毎年、多くの住民が他都市から移転してくる横浜市のような大都市では、ごみや資源物をスムーズに回収するために、とても大きなパワーが必要になります。古紙回収率100%達成は、ごみと資源物の分別をきちんと行い、決められた日に決められた場所に出すなど、自治会・町内会の皆さんを中心とした住民の方たちの環境問題に対する高い意識と協力の賜物といえます。

新しい住民が増加し続けている横浜市で、スタートからわずか4年間という短い期間に目標を達成できたのは驚異的ともいえるでしょう。しかし、その成功の陰には、横浜市と自治会・町内会、古紙回収業者の三者の協力とそれぞれの地道な努力があったからこそともいえるのです。

今回は、古紙回収率100%達成に至る道のりを古紙業界と資源集団回収の歴史を振り返りながらご紹介します。

地球環境問題を背景に古紙リサイクルが本格化

古紙は、紙の生産量や消費量と連動しており、長い間、経済の発展とともに増加を続けてきましたが、ここ数年は減少傾向にあります。また、古紙の回収量は、世の中の経済状況だけでなく、国や市など行政の施策によっても大きく変動します。さらに古紙回収業者は、古紙の発生量と古紙価格によって経営状況が左右されます。

資源集団回収の古紙回収量、回収率は、これら社会と経済の動き、行政の施策、自治会・町内会の取り組

み、古紙相場などが影響し合いながら、変遷をたどってきたといえます。ここからは、古紙回収と資源集団回収の歴史について**表1**の年表に沿って説明していきます。

1982年以前は、資源集団回収に横浜市が積極的に関与することはありませんでした。自治会・町内会やPTAなどの各団体が独自に回収業者と契約し、実施していました。1980年代前半は、集団回収という資源物回収の新しい方式が全国各地で、単発的に取り組まれるようになった時期でした。横浜市でも、この時期に取り組み始めた自治会・町内会が出てきており、早い段階から資源集団回収を取り入れています。

この当時、紙類は特に分別することなく、燃やすごみとして処分されていました。新聞や雑誌などは、そのまま燃やすごみとして出したり、家庭によっては貯めておいて、町内を巡回してくるちり紙交換業者に出したりしていました。

ちなみに、ちり紙交換という古紙回収の方法は、1973年に起こったオイルショックがきっかけとなって生まれたといわれています。オイルショックでトイレットペーパーの買い占め騒動が起こったことで、不要な新聞などをトイレットペーパーに交換する方式が人気となり、全国に広まったのだそうです。

1983年になると、自治会・町内会などの自主的な資源集団回収の取り組みに対して、横浜市がリヤカーなどの現物支給による助成を開始します。この頃から少しずつ、資源物の回収に取り組む団体が増えていきますが、まだ本格的な普及はしていませんでした。

表1：古紙回収と資源集団回収の歴史

年	主な出来事
1982年（昭和57年）以前	町内会やPTAなどの団体がそれぞれ独自に業者と取引。
1983年（昭和58年）	横浜市が町内会やPTAなどの登録団体にリヤカーなどの物品による助成を開始。
1989年（平成元年）	横浜市が登録団体に定額制奨励金交付を開始。
1990年（平成2年）	バブルが崩壊し、古紙の価格が下落。登録団体への奨励金が従量制となる。
1991～92年（平成3～4年）	古紙相場が少しずつ回復。
1993年（平成5年）	環境基本法施行。全国の自治体が古紙の分別回収を導入したことで古紙が余剰となり、古紙価格が一気に下落。古紙回収業者、古紙問屋の経営が苦境に陥る。横浜市が古紙回収業者に緊急支援を実施。
1994年（平成6年）	横浜市が資源回収業者奨励金交付要綱を制定。古紙回収量が急増し、古紙の在庫が増加。
1997年（平成9年）後半	古紙問屋の余剰在庫がピークとなり、雑誌の買い取り価格がマイナス（逆有償）になる。
2001年（平成13年）	古紙の輸出が本格化し、雑誌の逆有償が解消する。
2003年（平成15年）	横浜市が「横浜G30プラン」を策定。
2005年（平成17年）	全市で10分別15品目分別収集を実施（G30本格スタート）。古紙回収量が急増する。
2006年（平成18年）	横浜市が指定問屋制度を導入し、市施設での計量を実施。横浜市資源集団回収実施基準（ガイドライン）を作成。
2008年（平成20年）	リーマンショックにより古紙相場が下落。1世帯当たりの紙の消費量が減り、古紙回収量も減少。
2010年（平成22年）	横浜市が「ヨコハマ3R夢プラン」をスタート。資源集団回収による古紙回収率100%を目標にする。資源集団回収の実施団体（登録団体）が4000を超える。
2012年（平成24年）	資源集団回収による古紙回収量が18万トンを超え、古紙回収率が96%となる。
2014年（平成26年）3月	資源集団回収による古紙回収が100%を達成。

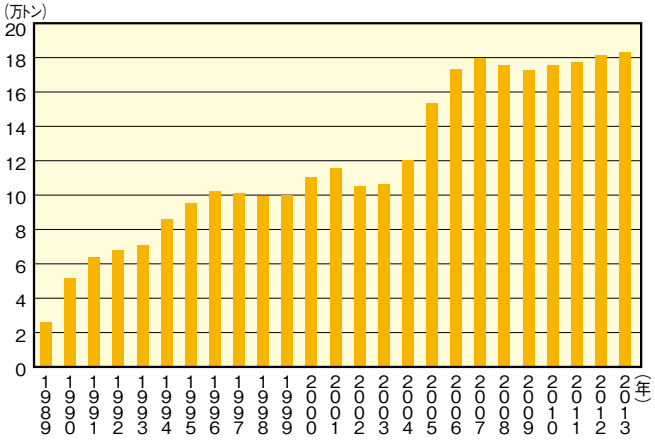
作成：リサイクル組合

やがて、地球環境問題が社会的な話題となります。かつての工業の発展による国内の地域的な大気汚染や河川・地下水汚染などの公害から、森林伐採や乱開発などによる熱帯雨林の減少、砂漠化、野生生物の減少など、地球規模の環境破壊問題へと拡大し、騒がれるようになります。特に温暖化やオゾン層の破壊などの問題に大きな関心が集まり、温暖化防止のためには二酸化炭素の排出を減らすことが必要であるといわれ始めるのもこの頃です。

1989年に横浜市は、自治会・町内会、PTAなどの登録団体に対して、定額制奨励金を交付するようになりました。これは資源集団回収を行うと、年に6回以下は3,000円、7回以上は5,000円を交付するというものでした。翌年の1990年には、奨励金を従量制に変更します。1kgあたり3円を交付するというものです。

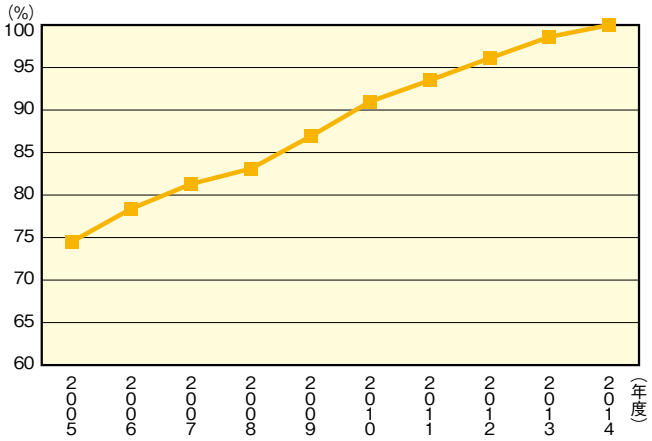
奨励金が従量制に変更されたことで、回収量が多いほど奨励金がたくさんもらえることになり、資源集団回収による古紙の回収量が急増します（**グラフ1**）。この時期から横浜市は資源集団回収の促進に本格的に取り組み始めたのです。

グラフ1：資源集団回収の古紙回収量の推移



出典：横浜市資源循環局Websiteより作成

グラフ2：資源集団回収による古紙回収率の推移



出典：横浜市資源循環局事業概要各年度版より作成

環境基本法で回収量急増 古紙の相場が崩壊する

資源集団回収による古紙回収量は急増しましたが、同時に国内経済はバブルが崩壊し、景気の悪化とともに古紙の価格が下落します。古紙回収業者は厳しい経営環境におかれますが、回収量が以前に比べて倍増したため、事業を続けることができました。やがて古紙の価格も少しずつ上向きになり、古紙回収量も増加し続けます。

ところが、1993年11月に環境基本法が施行され、全国の自治体が古紙の分別回収を行うようになります。その結果、古紙回収量が激増し、古紙相場は暴落してしまいました。古紙の価格が一気に下落したことで、多くの古紙回収業者、古紙問屋が経営危機に陥ってしまったのです。

横浜市でも1993年に比べて94年の資源集団回収による古紙回収量が20％も増加し、古紙の価格が暴落しました。古紙回収業者、古紙問屋の中には廃業したり、回収を拒否する業者が出てしまいます。そこで横浜市は、資源集団回収を行う古紙回収業者を救済するために奨励金を交付し、緊急支援を実施しました。さらに翌1994年、資源回収業者に対する奨励金交付要綱を定めたことで、資源集団回収が安定して実施されるようになりました。

しかし、その後も古紙の回収量は増え続け、古紙相場は低迷を続けます。古紙回収業者は、横浜市の奨励金に支えられたおかげで、事業を続けていましたが、その間にも古紙の余剰在庫はどんどん増え続けていきました。

やがて1997年後半、ついに古紙問屋の余剰在庫がピークを迎えます。古紙が倉庫に収まりきらなくなり、近隣の空き地を借りて積み上げるようになったほどです。製紙メーカーの需要以上に古紙が集まってしまったことで、雑誌の買い取り価格がマイナス（逆有償）になってしまいます。つまり、古紙回収業者は、料金を支払って古紙問屋に引き取ってもらうようになったのです。雑誌の逆有償は2000年まで続きます。この時期は、古紙回収業者や古紙問屋にとって非常に厳しい経営環境だったといえるでしょう。

余剰分を輸出することで 古紙の価格が安定化

2000年になると、古紙問屋は製紙メーカーの需要以上に回収された古紙を海外に輸出するようになります。中国経済が急成長し、ちょうど古紙需要が高まっていたのです。それ以前も輸出は行われていましたが、数万トン程度でした。2000年に約37万トンが輸出され、翌2001年には一気に約150万トンに増加します。国内の余剰在庫を輸出に廻すことで、古紙の価格はプラスに転じ、次第に落ち着きを取り戻します。国内の製紙メーカーに加えて、輸出という古紙需要が生まれたことで、古紙業界は安定化したのです。

2003年に横浜市は「横浜G30プラン」を策定します。ごみの30％減量を目標に「燃やすごみ」に含まれていた資源物の分別を促進することで、ごみの総量を減らす取り組みです。2005年に横浜市内全区で10分別15品目の分別収集が始まると、古紙の回収量は一気に増加します。2005年の古紙回収量は、2003年より40％以上も増加しています。

資源集団回収の回収場所ステッカー

この時、横浜市の古紙回収量全体のうち、集団回収による回収量の割合はすでに74.5％に達していました（**グラフ2**）。早くから資源集団回収を推進してきた横浜市は、「横浜G30プラン」による分別促進によって、さらに古紙回収の割合が増えたのです。

リーマンショックを経て古紙回収率100%を達成

2006年になると、横浜市は古紙回収業者の取引適正化のため、指定問屋制度を導入し、横浜市の施設での計量を実施しました。さらに、資源集団回収の実施基準（ガイドライン）を作成することで、今まで以上に資源集団回収の促進に力を入れました。古紙回収量は年々順調に増え続け、回収率も80％を超えるようになります。

しかし、2008年9月、リーマンショックが起こり、世界的な金融危機が発生します。世界各国で経済が低迷し、古紙価格も大きく下落してしまいました。これ以降、国内の紙の消費量が減少に転じ、1世帯あたりの古紙の発生量も減少し始めてしまいます。古紙回収量も一時的に減少しますが、回収率が増加し続けたこともあり、間もなく回収量は回復していきました。

2010年には、「横浜G30プラン」の成功をもとに、さらなるごみ減量をめざした「ヨコハマ3R夢プラン」がスタートします。この計画の中で資源集団回収による古紙回収率100％が掲げられ、冒頭に紹介したように、4年後の2014年3月に目標を達成したのです。

未実施地区ひとつずつ理解と協力を呼びかける

資源集団回収による古紙回収率100％は、いつの間にか自然に到達したわけではありません。その陰には、関係者たちの地道な努力もありました。

まず、横浜市内全域の回収場所がどこにあり、どこの自治会・町内会の回収場所になっていて、どの回収業者が担当しているのかを把握する必要がありました。横浜市の職員と自治会・町内会の方々、回収業者が協力して、回収場所マップづくりを行ったのです。

回収率が100％近くになると、残っている未実施地区をひとつずつ回り、資源集団回収への参加を呼びかけ、協力をお願いして回りました。横浜市の職員や回収業者が訪問して説明会を開き、実施することの意義やメリットなどを訴えたのです。

ほかにも、道が狭い地区では軽トラックによる回収を行うなど、住民の方々が不便にならないよう、さまざまな工夫と努力をしてきました。

現在は横浜市内全域で資源集団回収が実施されていますから、すべての住民の皆さんの古紙を回収業者が回収していることになります。もし、回収車の運転が乱暴であったり、回収漏れがあるなど、気づいたことがあればすぐに回収業者に連絡してください。回収業者の質の向上やサービスの充実につながるため遠慮はいりません。回収業者は、皆さんと協力し合い、よりよい街づくり、町内の環境改善に役立ちたいと心から願っているのです。

Yahoo!ショッピングの「りくみリサイクル製品」サイトをご利用ください!

リサイクル組合の再生商品は、Yahoo!ショッピングの「りくみリサイクル製品コーナー」でも購入できます。取扱商品は、❶**りくみのトレペ**、❷**さわやかダブル**、❸**シングルセット**、❹**ダブルセット**、❺**小結くん**（紙ひも）の5商品です。クレジットカード決済が可能で、Tポイントも使えてお得です!

店舗URL http://store.shopping.yahoo.co.jp/rikumi-store/

Yahooショッピングの検索窓から「りくみの製品」で検索

●**お問い合わせ・ご注文**……横浜市資源リサイクル事業協同組合　事務局　山中　**TEL**：045-444-2531　**E-mail**：mail@recycledesign.or.jp

これでスッキリ！
りくみの分別講座
No.13
新聞と雑誌をきちんと分別していますか？
1
今日は古紙を回収する日だくみ～★
月 古紙
火 もやす
水 プラ
木 もや
月刊
2
新聞と雑誌を別々に運ぶのは大変だから…
一緒にまとめちゃおう！
新聞
雑誌
3
そうだね！これなら持っていくのが楽チンだぞう！
4
コラ！
その出し方はダメじゃ～！
5
教えてしんぜよう！
雑誌
4月
新聞
同じ紙に見えても、それぞれ生まれ変わるものが違うのじゃ！
6
新聞に！
新聞は…
新聞
雑誌は…
雑誌
4月
雑誌もしくはお菓子などの紙箱に生まれ変わるのじゃ！
クッキー
7
そうか！それぞれ生まれ変わるものが違うから、分別が必要なんだ！
雑誌
新聞
8
新聞の折り込みチラシは…
新聞と一緒に出してOKじゃ！
折り込みチラシ
新聞
9
分別完了！集積場にレッツゴー！
雑誌
新聞
お～！花マルじゃ！

始末の一品

今月の食材

【 セロリの葉 】

セロリは茎だけを使って、葉の部分は捨ててしまうことがよくありますが、葉だけでもさまざまな料理に使うことができます。今回はサラダとトルコ風ハンバーグに使ってみました。

イタリアン・グリーンサラダ

材料（約２人分）

- セロリの葉……1本分
- ルッコラ……適量
- オリーブオイル……大さじ1
- 粗挽きこしょう、塩……適量
- レモン汁、粉チーズ……小さじ１
- ベーコン……２枚

❶セロリの葉は洗って食べやすい大きさにちぎる。葉についている細い茎は薄切りにする。ルッコラも洗って食べやすい大きさにちぎる。よく水気を切り、大きめのボールに入れる。

❷ベーコンは魚焼きグリルに入れカリカリになるまで焼いたあと、みじん切りにする。

❸❶のボールにオリーブオイルを入れて軽く混ぜ、さらに黒胡椒・塩、ベーコン、粉チーズ、レモン汁を加えて軽くあえる。

ひき肉のキョテフ（トルコ風ハンバーグ）

材料（６個分）

- 合い挽き肉……250ｇ
- セロリの葉……１本分
- 塩、レモン汁……小さじ１
- 胡椒、オールスパイスなどの香辛料……適量
- 片栗粉……大さじ½

❶ボールにひき肉を入れ、塩を加えてよくこねる。次に、みじん切りにしたセロリの葉、胡椒、香辛料、片栗粉、レモン汁を加えてよく混ぜる。

❷６等分にして、細長い形に整えたらフライパンに並べて火にかける。全体にしっかりと焼き色がついたら、蓋をして中まで火が通るように蒸し焼きにする。

❸お皿に盛りつけてルッコラなどを飾る。好みでマスタードやケチャップ、レモンを搾っていただく。

RD NEWS

2015年4月号　通巻247号
2015年3月25日発行

横浜型地域貢献企業最上位認定取得

赤い羽根「家庭の古紙・古布による福祉支援」先行実施地区との調印式を開催

リサイクル組合は、2014年末にNPO法人横浜市集団回収推進部会、社会福祉法人神奈川県共同募金会、社会福祉法人横浜市社会福祉協議会と協定書調印式を行った「わが家の資源で横浜の福祉を支えようPJ」に関して、先行的に実施する「市ヶ尾連合自治会」「長津田自治連合会」「希望が丘東地区連合自治会」の３団体と協定書調印式を行いました。

このPJは、市内で『よこはま市民の回収』という資源集団回収を行う「NPO法人横浜市集団回収推進部会」と「横浜市資源リサイクル事業協同組合」が地域で回収した古紙・古布１トンにつき50円を、赤い羽根協同募金に寄付をし、その寄付金が回収地区の福祉活動に活用される取り組みです。

３地区の連合会長は「このようなPJに参加できたことをとても喜ばしく思う」、「皆さんの心のこもった善意あるお金なので、地域のために有効活用したい」と声をそろえて賛同していただきました。

リサイクル組合は、この取り組みを市内に広めながら、リサイクルと福祉を繋ぐ活動を活性化し、地域に貢献していきたいと思います。

市ヶ尾連合自治会

長津田自治連合会

希望が丘東地区連合自治会

ごみと資源の分別講座“出前講師”を自治会町内会でご活用ください

リサイクル組合では、現場で働いているリサイクルのプロが、横浜市内の自治会町内会の皆様のもとに出張し、無料で講座を行う「移動リサイクル教室“出前講師”」を通年で実施しています。

講座内容は、横浜市の基本的な分別を学んでいただき、ごみと資源を分ける理由、古紙や古布、鉄、スチール缶、アルミ缶、ガラスびんなどいろいろな資源物のリサイクルについて楽しくわかりやすく解説します。講義時間は通常60分ですが、事前にご相談していただければ変更することも可能です。

新たに委嘱する環境事業推進委員への環境学習の場や、自治会町内会での3R・分別知識の再確認、日頃の疑問解消の機会として“出前講師”をご活用ください。

■お問い合わせ・お申し込み先
横浜市資源リサイクル事業協同組合
事務局　山中
TEL：045-444-2531
E-mail：mail@recycledesign.or.jp

西区のリサイクルデザイナー Recycle Designer

有限会社マルニ商店

リサイクル事業を通じて地域社会に貢献できる企業を目指して！

弊社は、昭和５年の創立以来、一貫して「安全第一」「品質第一」「負けるが勝ち」を信条にカレットを中心としたリサイクル事業に取り組んでまいりました。

資源物を適切にリサイクルルートに乗せるという本業とともに、事業を通じて社会に広く貢献したいという目標のもと事業を展開。ISO14001取得、横浜型地域貢献企業最上位認定、横浜環境活動賞受賞など、多くのご評価をいただいております。

地球温暖化をはじめ、様々な環境問題を抱える今、カレット（ガラス屑）をはじめとした資源物のリサイクル事業を通じて、循環型社会の構築に貢献し、社会から認められる企業、ソーシャルリサイクリングカンパニーを目指して、これからも着実な歩みを進めます。

■有限会社マルニ商店
〒220-0072
横浜市西区浅間町3-174-1
TEL:045-311-5648
FAX:045-312-1304
http://www.marunishoten.co.jp/

■事業内容
- カレット、ガラスびんのリサイクル事業
- 資源集団回収事業

リサイクルデザインのバックナンバーは、ホームページからもご覧いただけます
http://www.recycledesign.or.jp/rd/
スマホ、タブレットなどはこちらのQRコードからアクセスできます。

月刊リサイクルデザイン
2015年4月号　通巻247号　2015年3月25日発行　発行人：高田哲二　編集人：藤本達也　印刷：太陽印刷工業株式会社　発行部数：88,000部
発行所：横浜市資源リサイクル事業協同組合　〒221-0054 横浜市神奈川区山内町13番地　TEL：045(444)2531／FAX：045(444)2532
本誌は古紙70%の再生紙と環境にやさしいNonVOCインキ、油性インキ「SOYA-eシリーズ」を使用しています。
VOC FREE